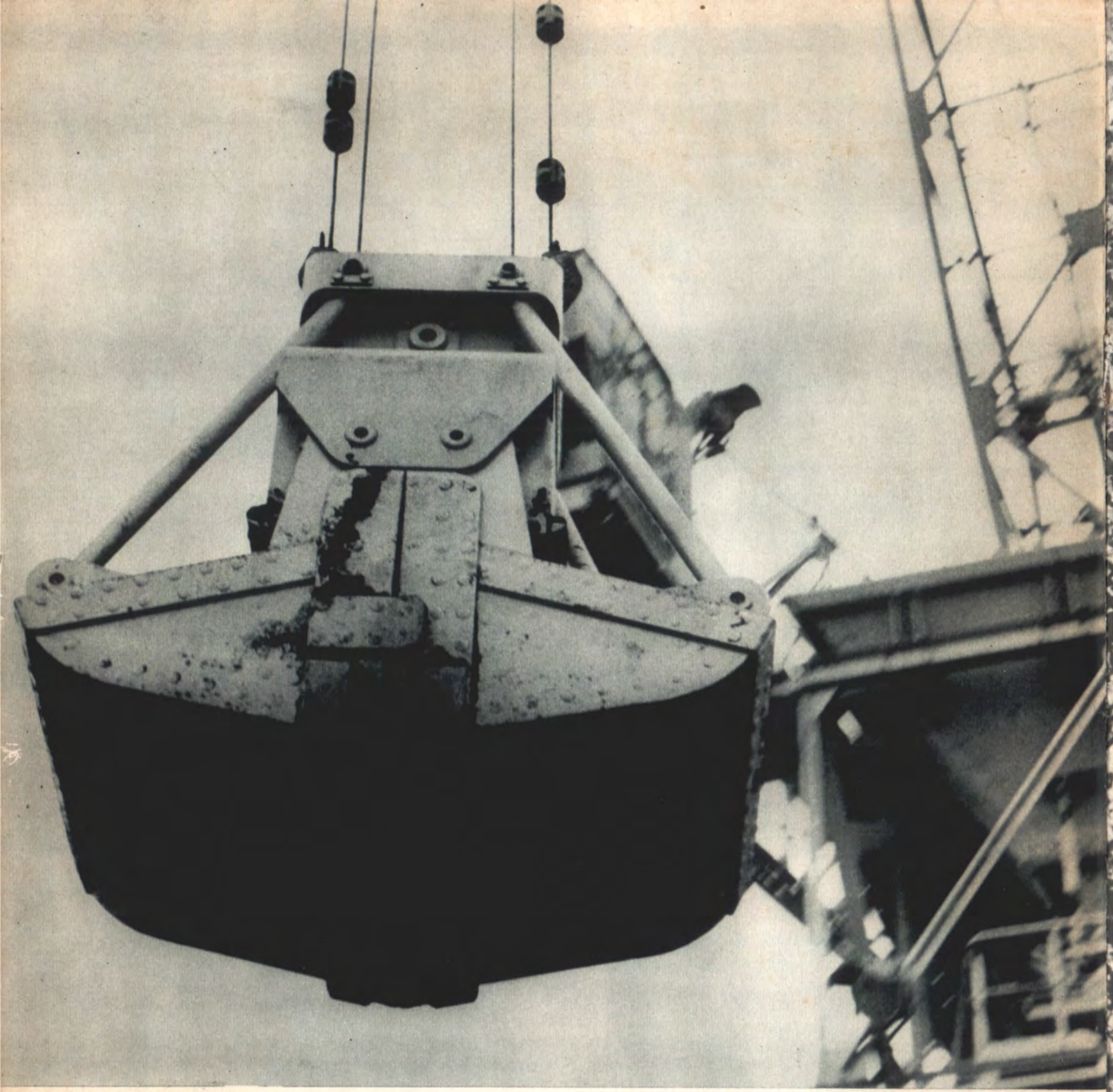
県民グラフ

目で見る県勢

1960



マンモスクレーンと大型バケット

総合開発の話

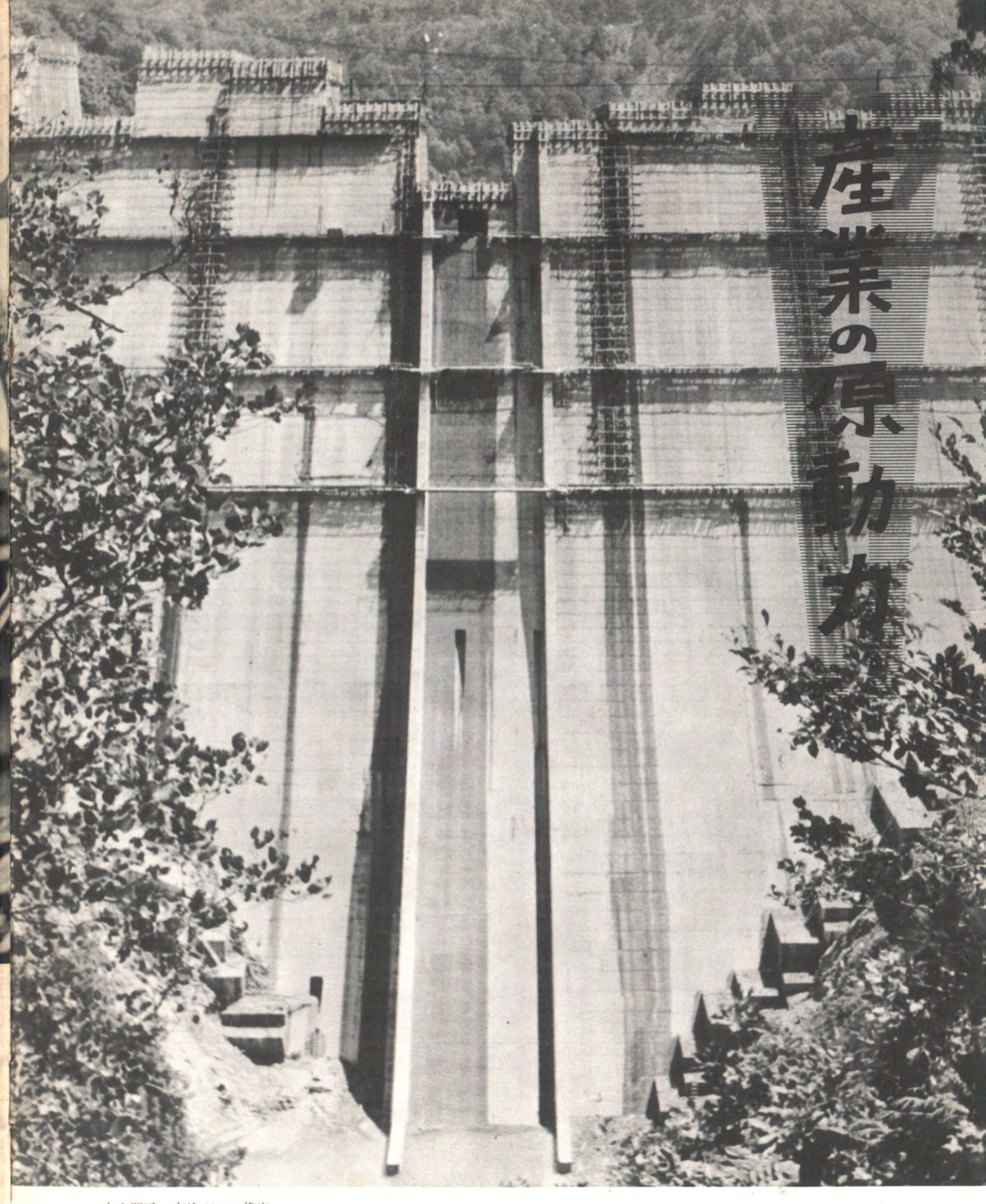
豊かな住みよい郷土を造りだすために、富山県では昭和二十七年に全国でも最初に県の進んで行く方向と目標を示した総合開発計画を作りました。

その後五カ年に世界各国の間ではいろいろな問題が起こり、政治に、又社会的に大きな変化があり、私達の生活も大変な影響を受けました。そのため国では今後の目標と方向をきめる「経済自立五カ年計画」が作られました。

本県でも初めに作った総合開発計画を国にならって修正する必要があると感じましたので昭和三十二年に再び各界の権威者の知恵を借り、昭和三十二年より昭和三十五年までの修正四カ年計画を作りました。修正四カ年計画は、ほんとうに県土の隅々にまで根をおろし、その後の県政に重要な役割を果してきましたが、今後もこのような計画はますます重要視されると信じています。

富山県の計画の特色は、県内にある資源を開発する計画、たとえば発電所を作るとか、工場を拡張するとかの計画ばかりでなくて、これらの施設から毎年どれだけの利益があるか、また、この利益が県民の所得とか消費にどのような関係があるかをあきらかにすると同時に、貯蓄とか投資とかの面でも有機的にすべての計画が組み合わせてつくられていることです。

いいかえれば、それは県民が文化的生活をするために必要な所得はどれ程で、その所得を得るための産業の構造と規模はどのようなもので、このために必要な資金はどの程度であるかを合理的に結びつけ、県民がより水準の高い文化的な生活を築くことができるよう総合的に考えた努力目標ということができましょう。



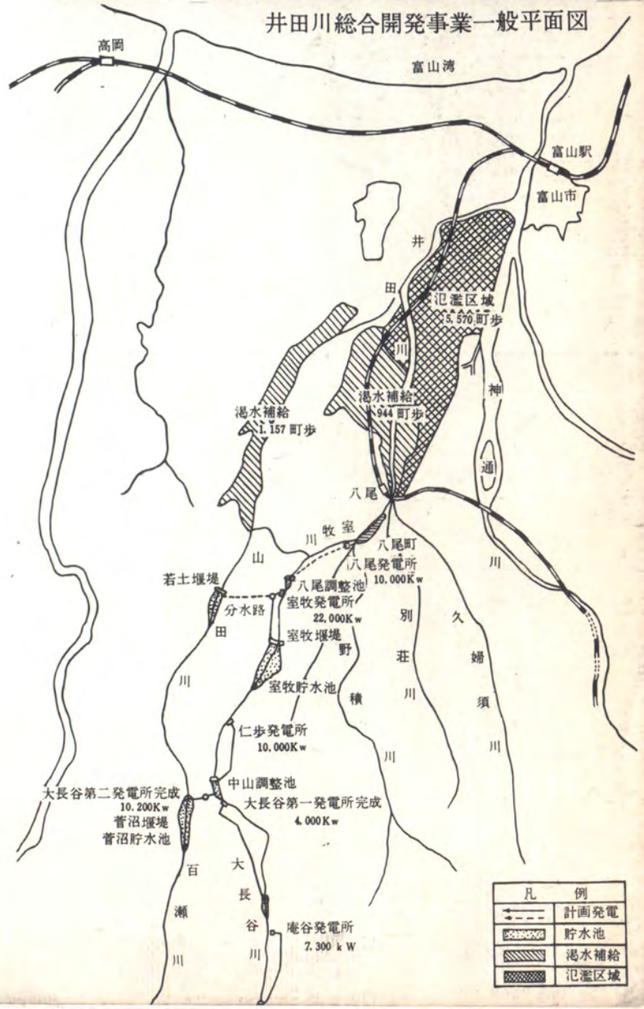
完成間近い有峰ダムの偉容

表紙　対岸貿易港として目覚しい発展を続ける富山港と新設されたマンモスクレーン

総合開発のモデル

井田川の流れ――この川の上流で多目的ダムの建設が行われている

井田川総合開発事業一般平面図



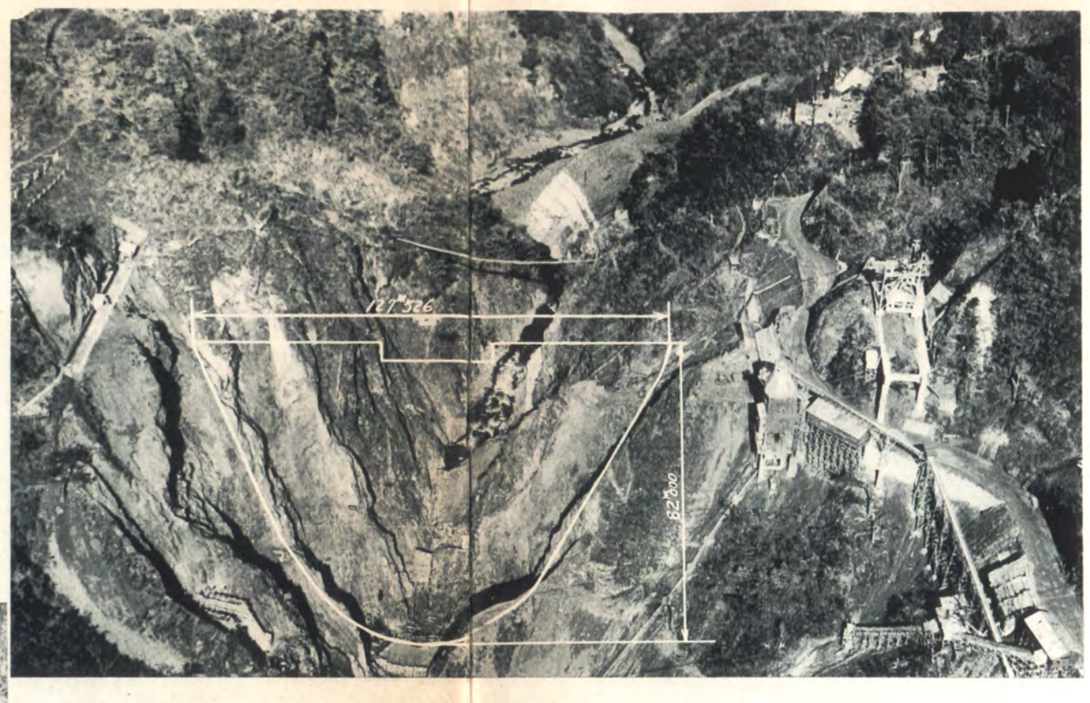
神通川の支流井田川は、ふだんは豊富な水量に恵まれた好適な電源地帯ですが、時期によって水量が一定しないため、昔からたびたびの大洪水がありました。また灌漑用水にも利用されていますが、少し日照りがつづくと肝心の田植時には水不足になり、農民は悩まされてきました。

この洪水と水不足を根本的になくするために、昭和三十二年、多目的ダムを築造して一挙に洪水の防止と、発電と灌漑用水の補給を行うという一石三鳥の構想から、この川を中心にした総合開発計画をたてました。

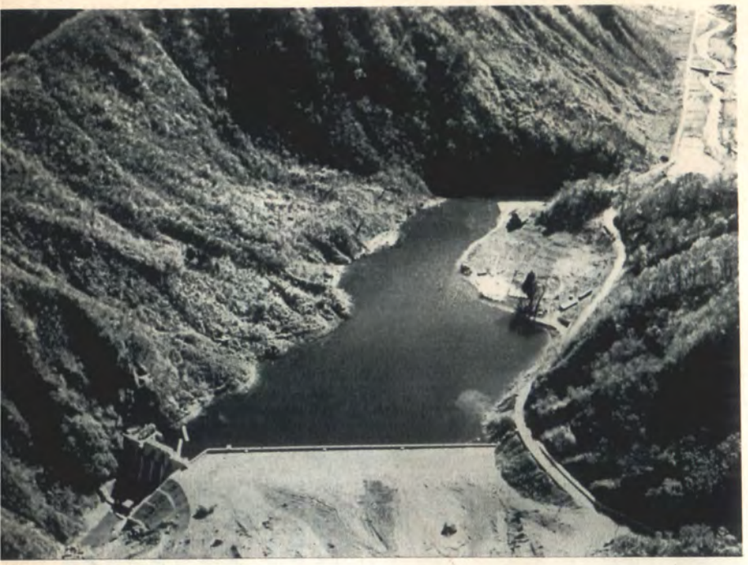
大長谷第一発電所はすでに完成し、同第二発電所も昭和三十四年三月に完成しました。

現在、この計画で一番大切な室牧発電所と室牧ダムの建設に着手しています。

井田川総合開発事業が完成しますと、年間約五、五〇〇万円もの被害が防止され、渇水期に充分水を補給するので、年間五、四〇〇石もの増産になり、また電気は大長谷第一、同第二、庵谷、仁歩、室牧、八尾の六発電所で最大出力六万三、五〇〇KWの年間三億KWHもの電力が起こされることになり、洪水の不安からこの地方の人々を守るだけでなく、産業をおこすのに大きな力となります。



建設を急ぐアーチ式の室牧ダム　本格的多目的ダム



↑菅沼ダム

←大長谷第二発電所

もう洪水の心配もなければ、水不足に悩まされることもなくなった

新しい農業

本県の農家収入の八割近くを占める米が連年豊作で、最近の農家は好景気を示しています。

米は近年急速に増産され、昭和三十四年にはついに史上最大の収穫となりましたが、これは早期稲作栽培の技術が向上したためです。

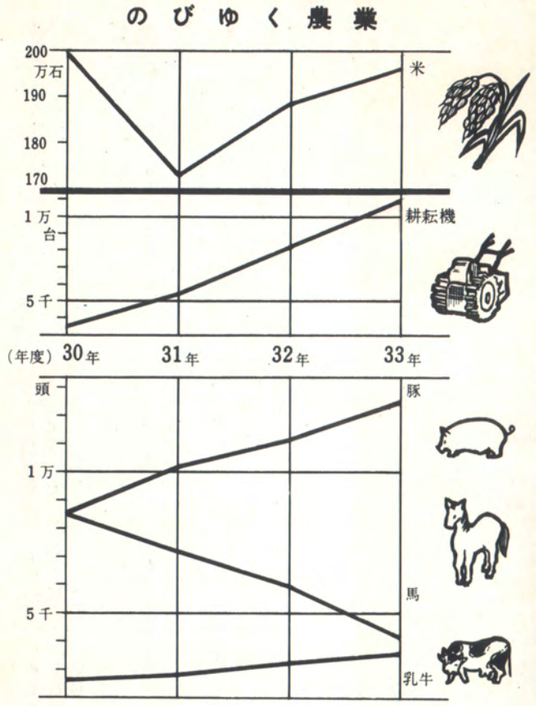
しかし一方、全国的な問題として、現在の農業が今後ほかの産業と一緒にさらに発展するためには根本的な質の改善が必要であるといわれています。今後はさらに水稲の安定した増収を目標にし、量より質の向上に重点をおいて、良質な早場米をつくって行くことが必要でしょう。

またこれとともに有畜農業をさらに伸ばすことで、それには土地、飼料、家畜の質、販売の仕組などを考え、畜産が本当に本県農業の内部に生まれてくる基盤をつくることが大切です。県では現在とくにこの畜産振興に力を入れています。

もう一つ重要なことは農家の大きさの問題です。経営面積の大きい農家には新しい技術と機械を普及し、また小さい農家には技術や機械を受入れることができるよう共同化を推進したり、農業法人をつくることも考えられ　農業改良普及員や営農指導員の果す役割もとくに重要になってきます。

そこで県では昭和三十五年度から営農指導員をさらに倍増して新しい技術が実際の営農面に充分反映するよう努力しています。

輸出チューリップの品種改良
—県農業試験場砺波園芸分場—



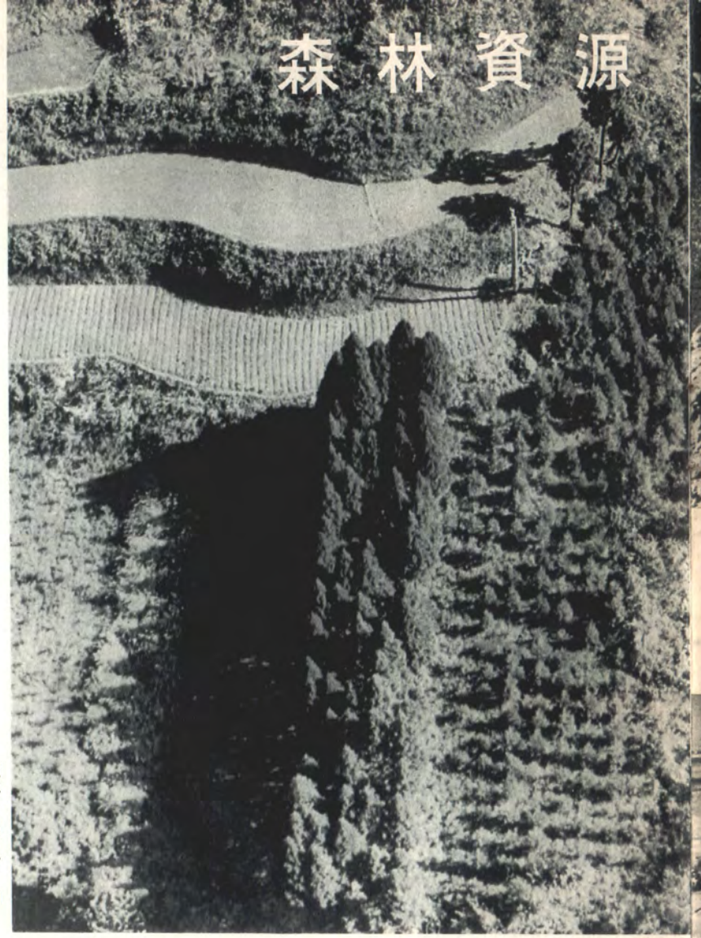
畜産振興のセンター—県畜産試験場のサイロと乳牛の群

畜産農業はまず飼料の確保から—紫雲英刈取機

害虫の防除も機械化されてきた——スピードスプレーヤー

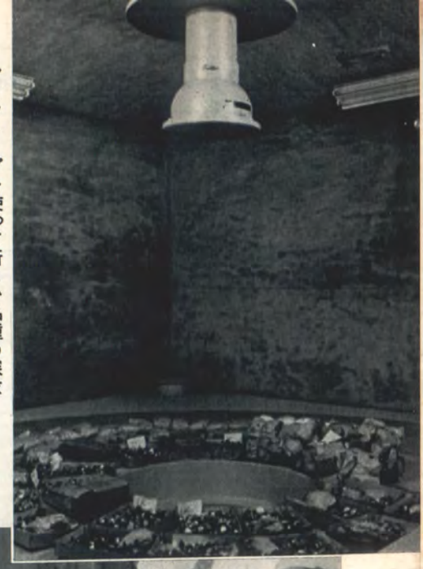
森林資源

杉の苗が苗圃ですくすく育っている



植林されて行く山

流水客土で土壌の改良



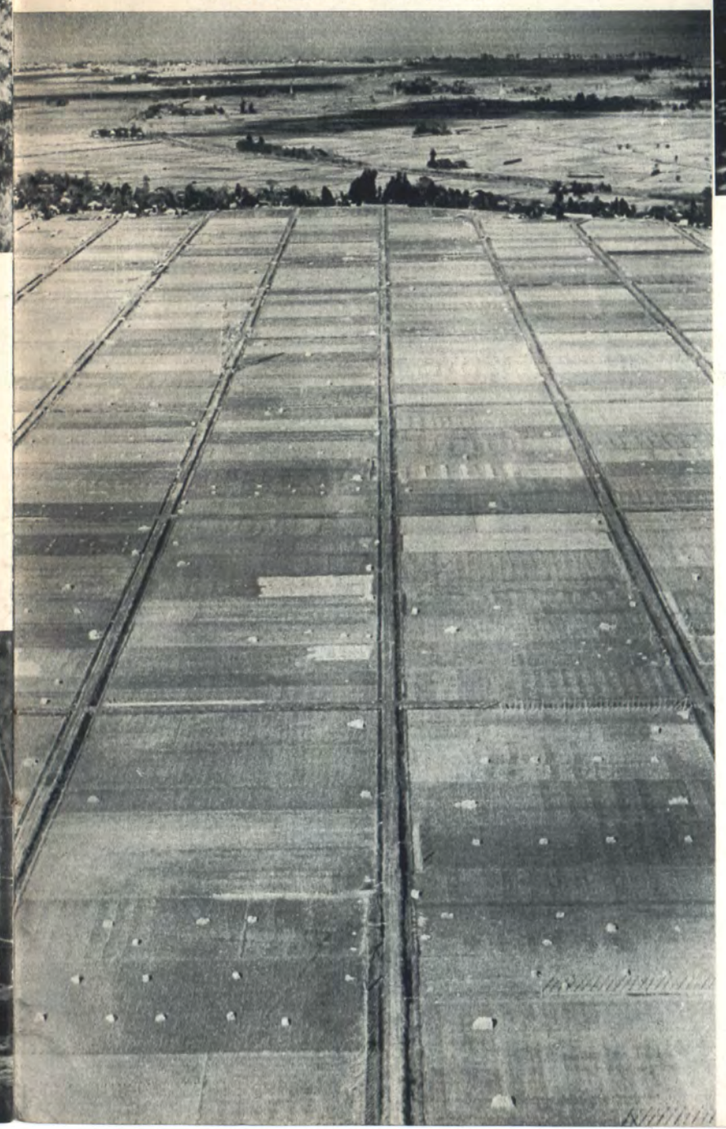
アイソトープを使って新しい品種の探求

林道の工事も森林資源の開発には不可欠です

本県はきわめて山地が多く、林野面積が非常に大きいのですが、この中には植林しなければならないところや、森林があっても奥山で林道を新設しなければ運び出せないところなどが多く、すぐ役に立つ木材はあまり多くありません。

一方、県内に必要な木材は主に建設用材とパルプ原料で、県内でとれるだけでは足りないので、大部分は県外から移入されています。

このため県では、毎年一、〇〇〇万本もの苗木を育成して植林に努めています。



見事に耕地整理された射水平野の水田

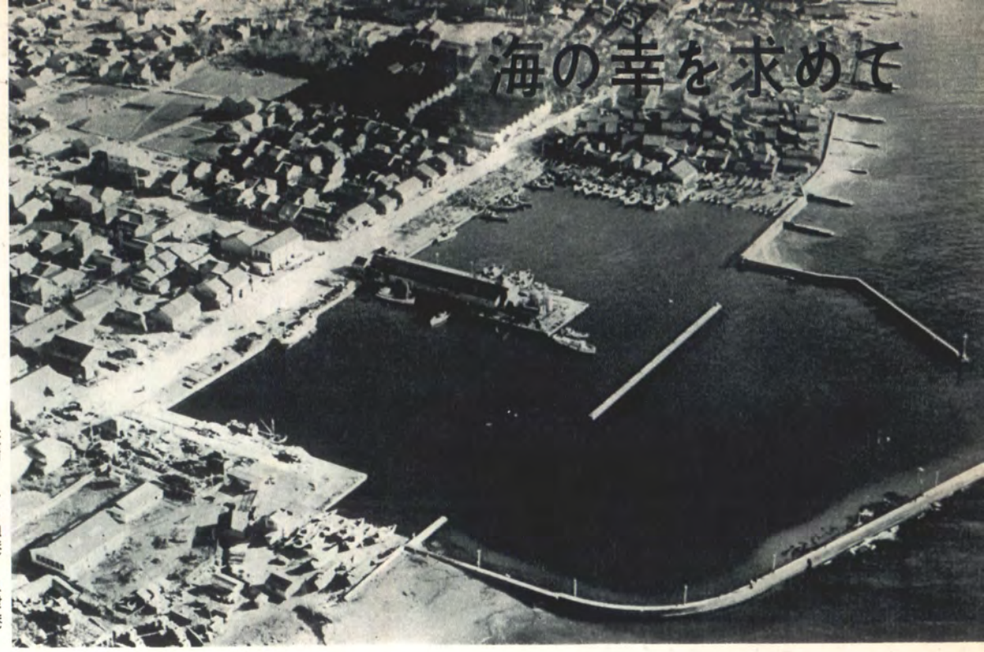
ビニール温床で苗を促成栽培する

美しく植えられた杉の林

切り出された木材はふもとの製材所へ

共同集荷所から農産物を出荷する

海の幸を求めて



整備された漁港—魚津港

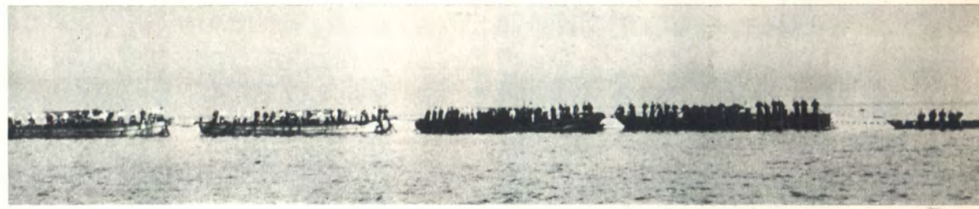
富山県の漁業は昔から沿岸漁業が中心で、そのうち水揚高の六～七割は定置網漁業によって占められています。しかし最近は漁民の数が多いのと、魚の量が減ったのとで漁獲は段々減少する傾向にあります。

そこで、沿岸漁業の不振を、沖合、県外、北洋漁業で補うため、それに必要な漁港、漁船の整備や漁況の調査研究などが進められてきました。しかし、魚の回遊状況が充分つかめなかったり、県外の漁場へ入ることが困難であったり、北洋漁獲の制限などもあって、必ずしもその成果は充分にあがっておりません。

そこで県では、深海漁場の開発や魚群回遊状況を調査研究し、また新漁場を積極的に開拓するため、漁港を整備したり、漁業調査指導船を建造して沖合、県外にそれぞれ活躍できるよう努めています。

空からみた大敷網の一部

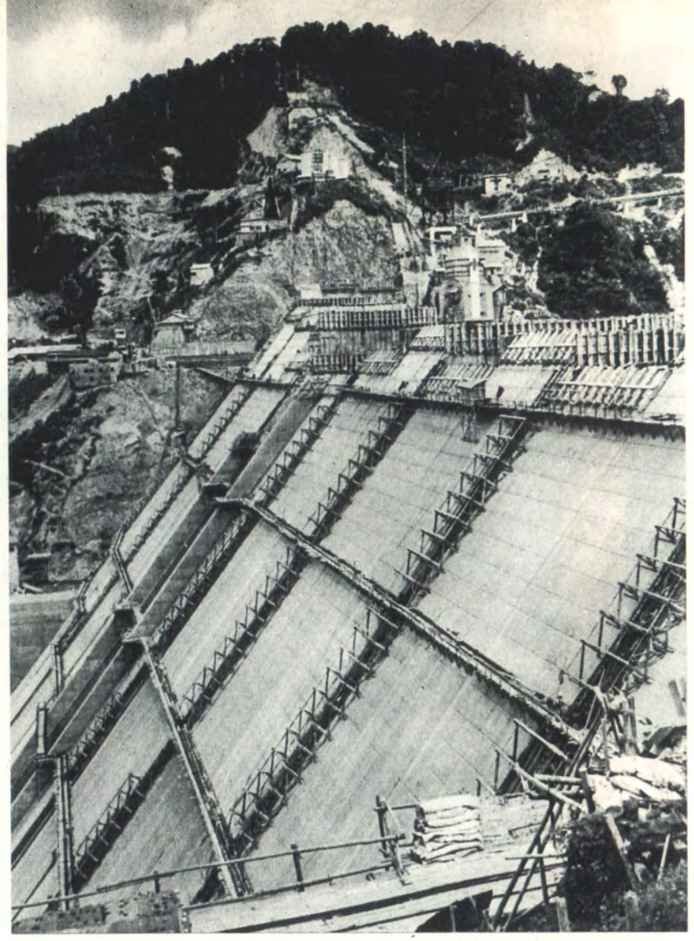
虹マスの水　産養殖も進められている



沖合漁業—ぶり網

漁業調査指導船（立山丸）の進水　昭35.2

大漁旗をはためかせて北洋へ向う漁船群



常願寺川水系に建設中の有峰ダム（北陸電力）

電気の富山

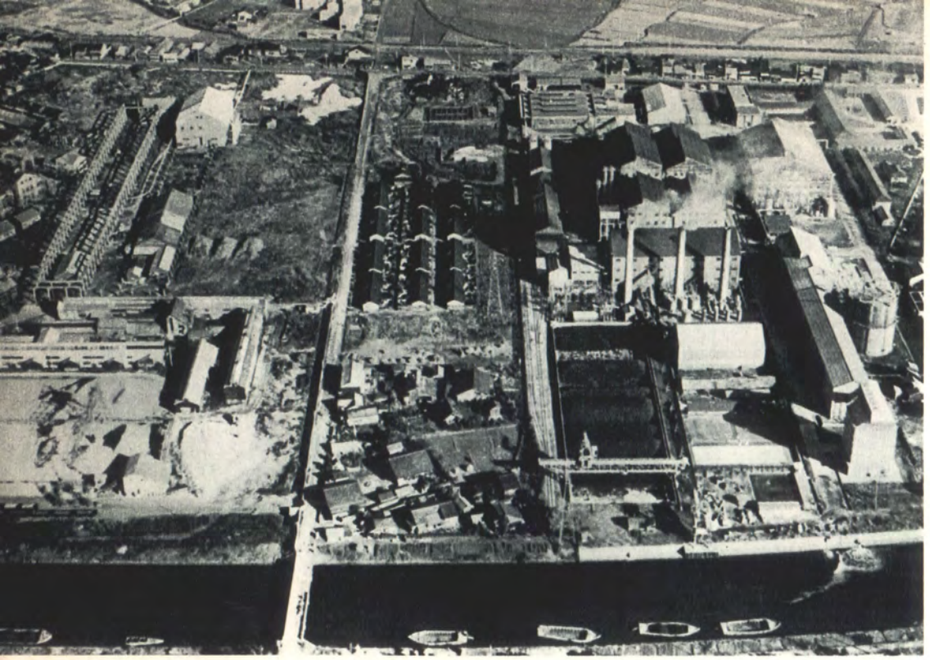
本県は電源王国といわれ、現在七二カ所、一一五万五千KWもの電気をおこす発電所を持って年間六〇億KWHの電気を起こしていますが、このうち約五割の三〇億KWHは関西に送られています。

最近の発電所工事では、黒部第四（関西電力）、有峰（北陸電力）等の大発電所が有名で、いずれも近代土木技術の粋を集めた大ダムが築かれています。

本県の電源開発は、全国的にみるととても進んでいますが、昭和三十四年通産省の調査では、県内（河川の上流で岐阜県を含む）でまだ発電可能な地点が約九十カ所、最大出力四百万KW以上もあることがわかりました。今後の電源開発にはさらに明るい希望がもてるというものです。

全地下式の黒部川第四発電所の建設現場（関西電力）

躍進する工業



富山工業地帯

電炉による製鋼

カーバイド工業

機械製造工業（ボールベアリング）

化学肥料工業（尿素の製造）

高岡工業地帯

安く豊かな電力を基礎に全国でも有数の工業県として発達し、日本海沿岸第一の工業地帯を形づくっています。

主な産業は繊維、化学、紙パルプ、鉄鋼などで、その出荷額の割合(昭和三十三年)は、繊維二一％、化学二一％、紙パルプ一二％、鉄鋼九％となっています。

製品では、綿糸、洋紙、硫安、石灰窒素、ポバール、フェロアロイ、軸受、燐、溶解パルプ、塩化ビニール、メラミンなどが主なものです。

しかし、最近では電気料金は昔ほど安くなくなり、電力だけをもとにして今後の発展を期待するわけにはいかなくなりました。そのために、いろいろな計画（対策）をたててきました。なかでも、港をつくり、広い土地と豊富な水を組み合わせて一大工業地帯をつくることに最も大きな望みをかけています。

また、大工場で造られた製品は他の工業の原料となるものが多く、ほとんど県外の工場に送られて完成品となっておりますが、これからは県内で完成品ができるようにすることも必要です。

また、工場の廃物や副産物を活用する工業の発達を図ることも大切なことです。

それに加えて、企業の体質改善、経営の合理化ということも大きく取り上げられねばなりません。またそれに伴って文化的な施設の整備なども考える必要があります。

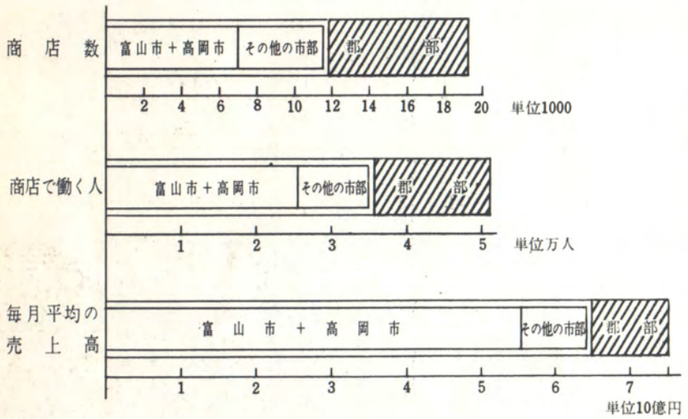
今後これらの計画がおし進められて、富山新港がつくられ、北陸本線の複線電化が進み、国道八号線、四一号線などの道路の整備が行われ、さらに電源開発が進められれば、ますます富山県の工業は躍進し、県民の生活水準の向上が計られて行くことでしょう。

商業の発展

青果市場の賑わい

商業の動向

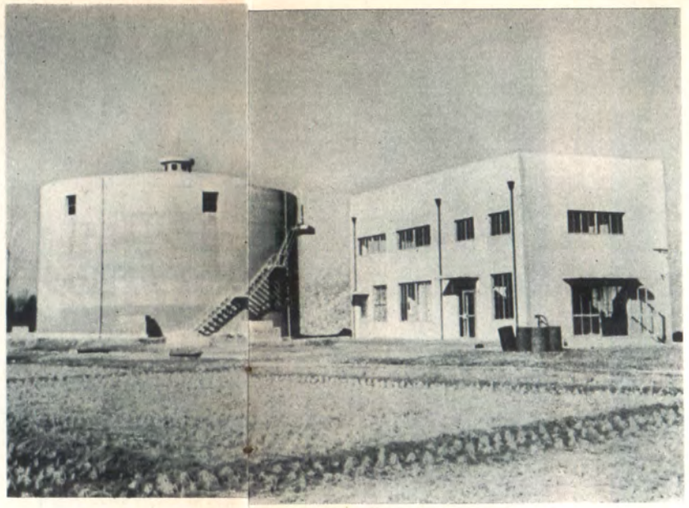
昭和33年4月～昭和34年3月



アーケードで整備される商店街

手捺染工業

パルプ工業



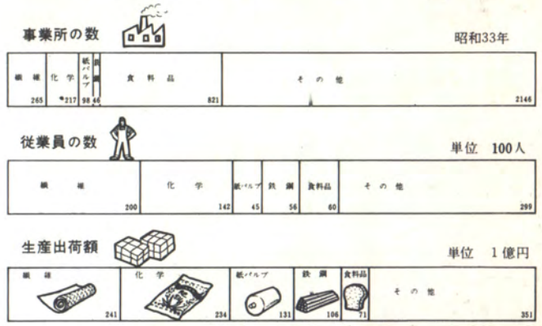
工業用水も充分確保されている

高岡銅器の仕上

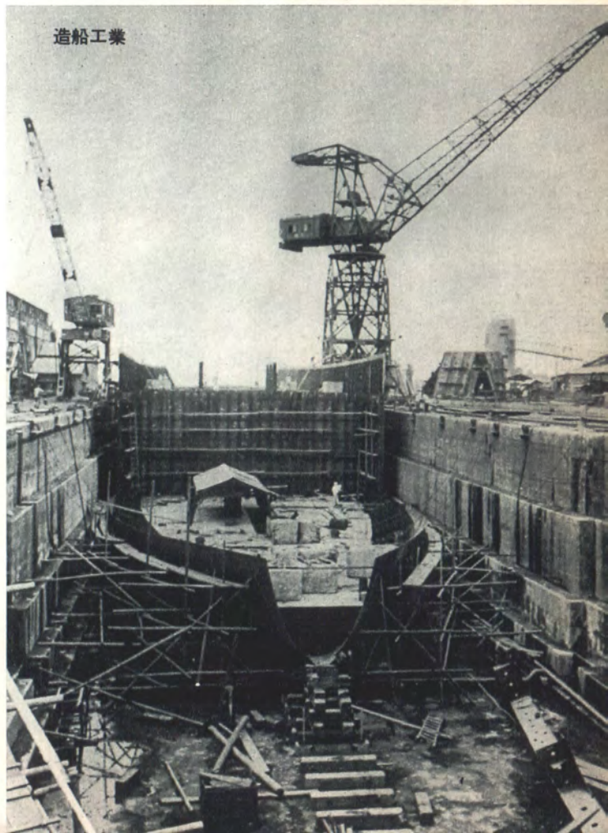
製薬―薬の自動包装

スライドファスナーの製造

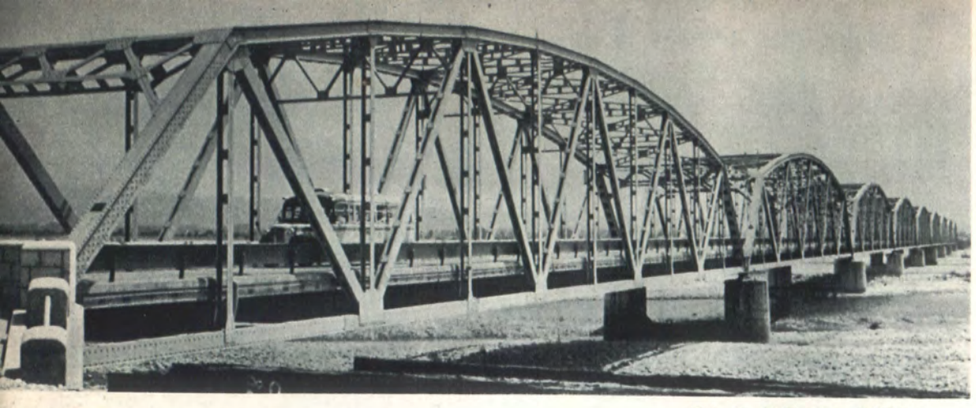
工業は近代化している



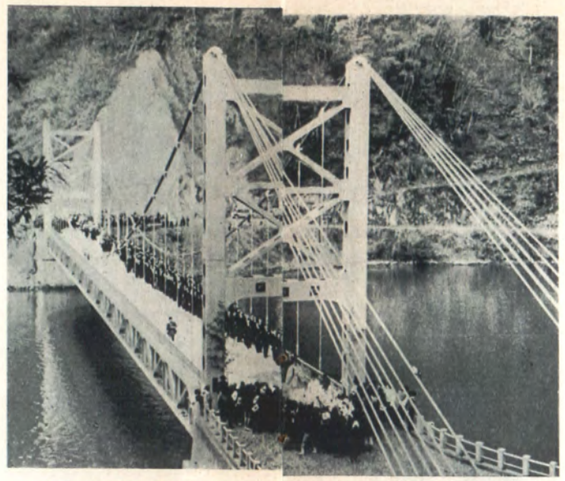
造船工業



道路と橋

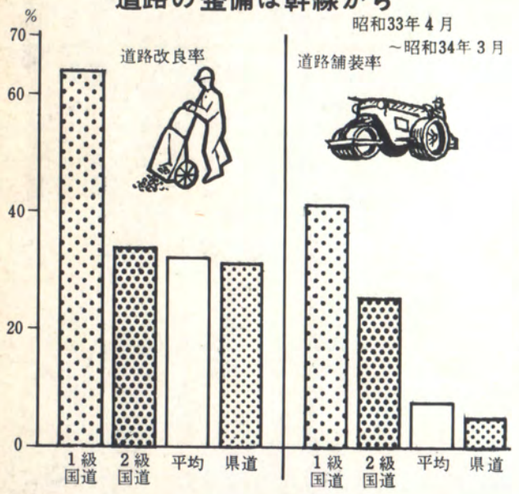


県内で一番長い橋—黒部大橋—



奥地の開発と連絡のために架けられた橋—平村大渡橋—

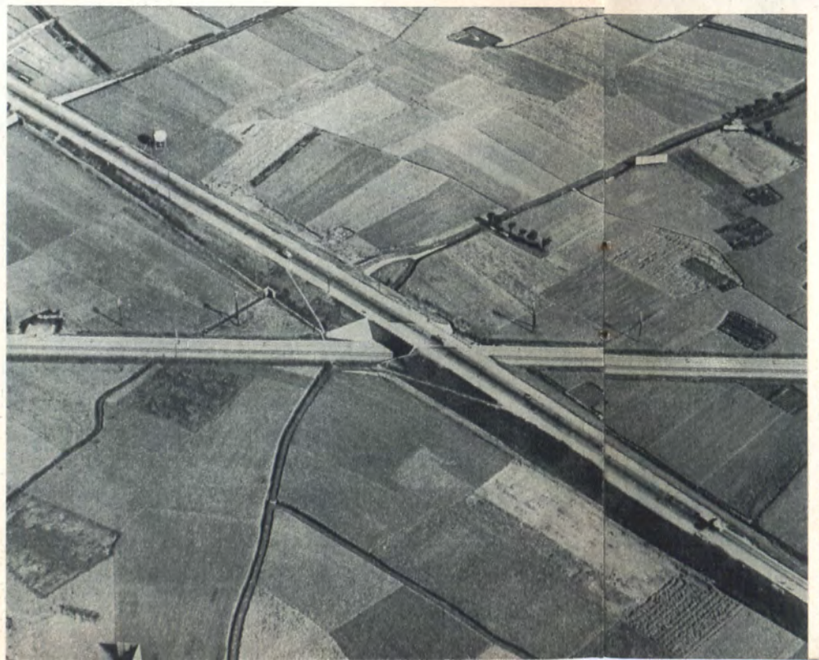
道路の整備は幹線から



県道も舗装が進められています。

船を通すために上下に動く橋—新湊市内—

曲りくねった旧国道と新国道八号線



国道と複線になった北陸本線の立体交叉

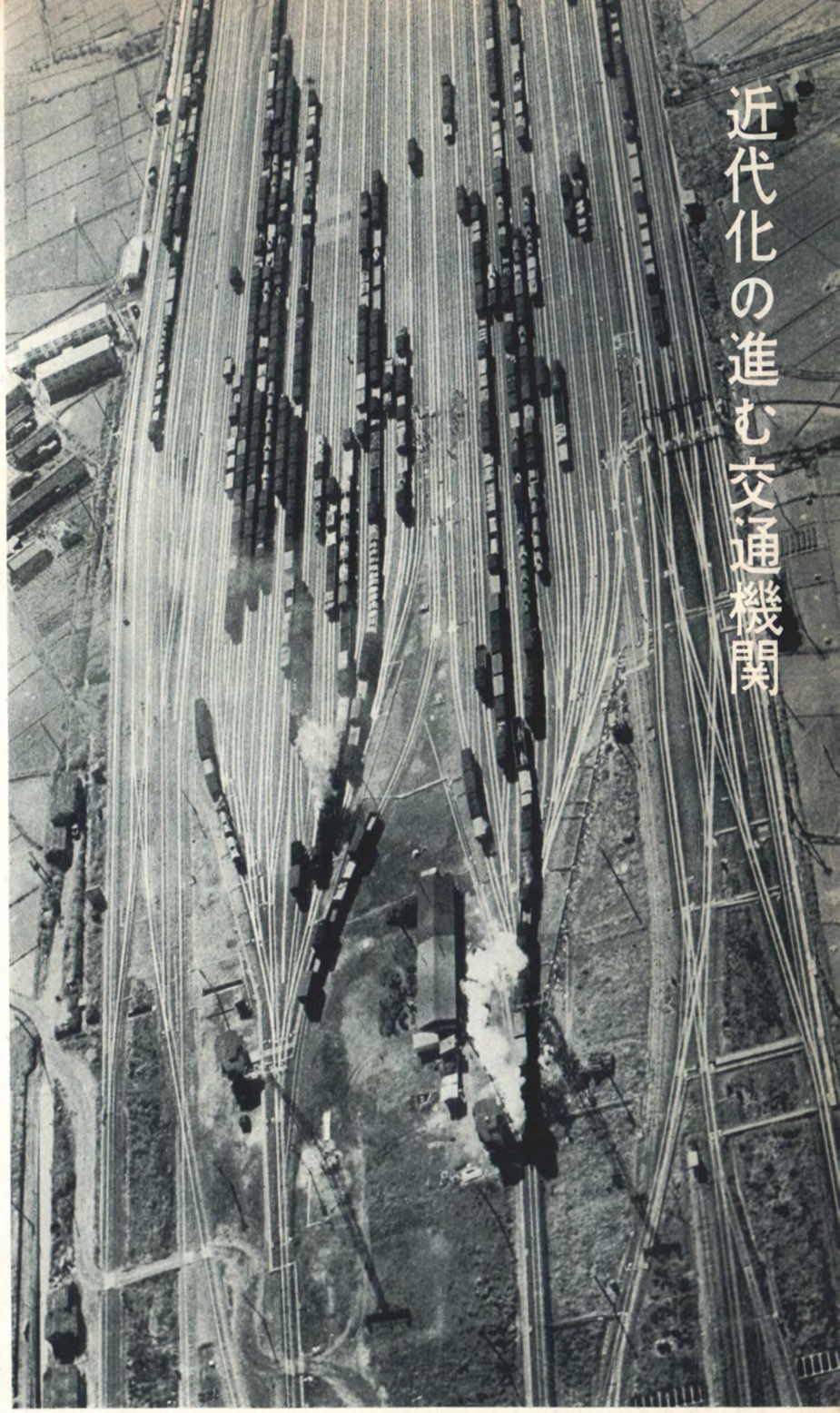
富山県を横断して伸びる国道八号線

最近の自動車交通量は、バス路線がふえたのと、近距離の貨物輸送は自動車の方が便利なことのため、めざましくふえています。

一方、この自動車が走る道路や橋梁の整備は事業の性質上、急によくすることができないので、自動車の発展にくらべて、ずいぶん立遅れています。

しかし、県では国の道路十カ年計画にあわせて着々整備しております。持に本県は河川が多いので、道路交通の安全をはかるため、橋梁を永久橋にすることに重点をおいています。また、名古屋—富山間も一級国道に認定されたこは、非常に喜ばしいことで、国道八号線とともに北陸経済圏の根幹として重要な役割を果すことでしょう。

近代化の進む交通機関



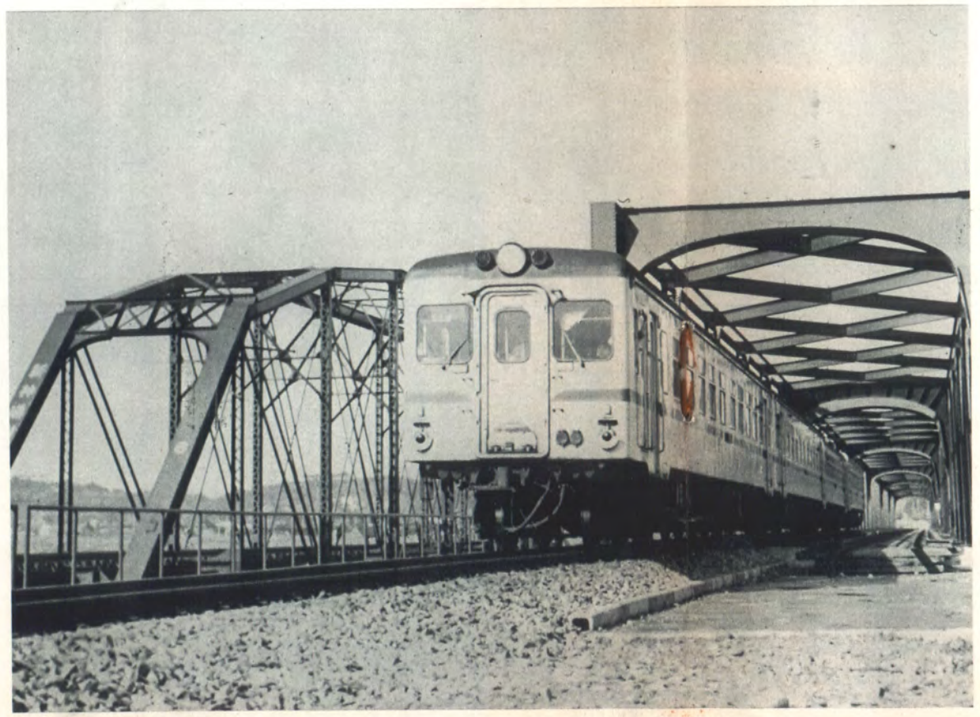
北陸本線の心臓部富山操車場

県下各地で複線工事が続けられている

北陸本線は、北陸経済圏を培養する唯一の幹線鉄道です。阪神、中京との経済交流はもちろんのこと、原材料生産地である北海道、東北を最短距離で結ぶ重要路線でもあります。

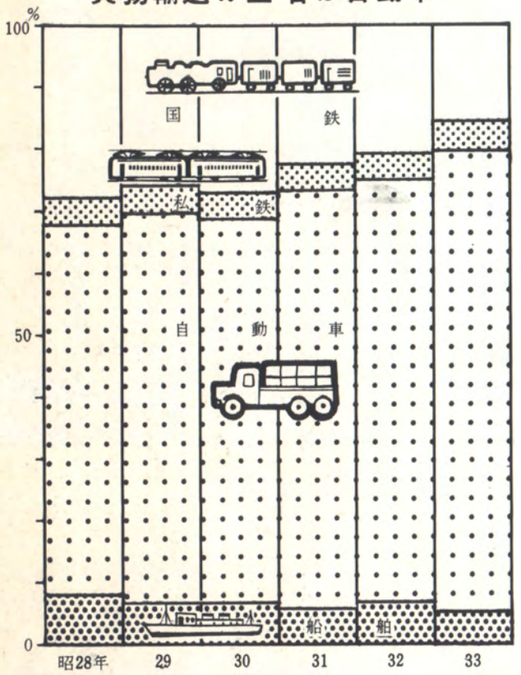
このため国鉄では、北陸本線を国内最重要線として整備にかかりました。すでに米原―敦賀間の交流電化と勾配改良を完成し、一、〇〇〇トン輸送（二〇トン貨車五〇輌）が開始され、つづいて現在まで、富山操車場、小杉―富山間、長浜―木ノ本間の複線が完了し、さらに北陸本線で最も能率の悪い区間として残されている敦賀―今庄間の北陸トンネル（世界第五位の長さ）も完成が急がれています。また小矢部鉄橋も現在工事中です。

このようにして昭和三十七年度には米原―富山間（二四五km）の複線化が完成し、産業の発展に大きく貢献するものと期待されています。



近代化の進む国鉄―新しく架けられた複線鉄橋とジーゼルカー

貨物輸送の王者は自動車



新しく整備された国道を走る陸上輸送の花形

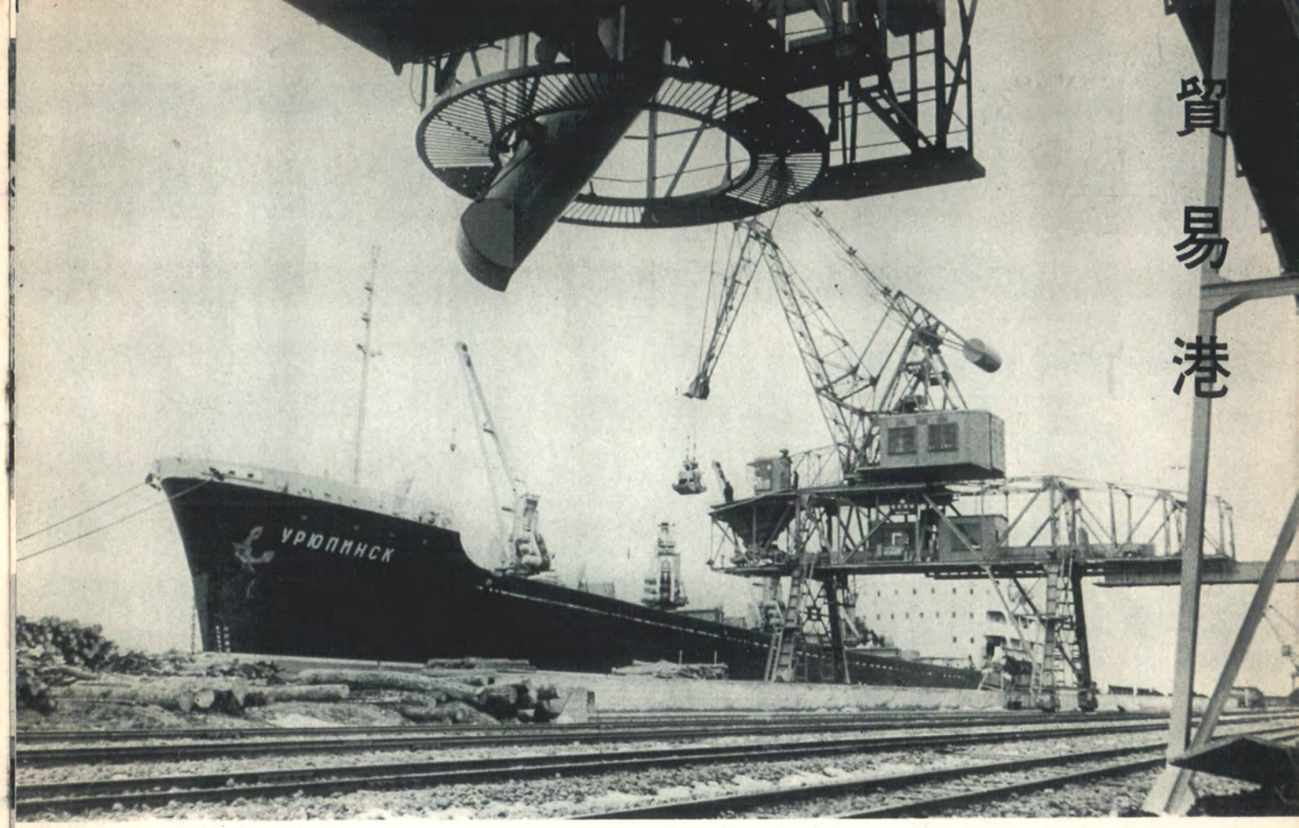
貿易港

富山、伏木両港は、とくに工業と密接な関係があります。そのうえ、対岸貿易港としては地理的に日本海唯一の好適地でもあるので、最近貨物の取扱量は年々増大しています。

このため、両港はそれぞれ整備拡充を計画しましたが、いずれも地形的にはこれ以上の拡充は困難と考えられます。

一方、射水地帯で県の産業を振興するため、新しい工業地帯をつくって工業生産をより高める計画がすすめられ、このための港湾施設が必要となっています。そこで新しい港湾として放生津港、和合港が必要となってきました。県では、これら港の計画と背後地を工業地帯とするのに必要な種々の調査を進めています。

伏木港国際貿易船入船でにぎわう



富山港に偉力を添えたマンモスクレーン

整備された伏木港、左岸は一万トン岩壁

背後地に工場群をひかえた富山港

都市計画

戦災から復興した富山市の家並

都市計画は市民生活を安全に衛生的にするばかりでなく、愉快に働けてその能率を高めることを目ざしています。

県では各都市の自然的条件を活かして、町の発展のために街路、区画、市場、防火施設などを整備して商業や工業を発展させるための土台を作り、また公園広場、緑地、運動場、ゴミ捨場、上下水道など美しい衛生的な住みよい生活環境を造り上げることに努めています。

大火から立ち直った魚津市街

理想的な街並をつくる団地

目抜通りから整備される高岡市

富山新港

富山新港が築造される放生津潟

この地帯は新港の建設とともに大工業地帯となる →

（和合町上空から放生津潟を望む）

本県の重要工場は、ほとんど東京・大阪に本社をもち、また製品の販路も大部分が東京・大阪・名古屋方面に依存しています。そこで今後ますます発展する産業界の要望もあって、これらの都市と迅速に連絡をとる必要が生まれてきました。

最近は全国各地に民間航空路が発達して中央との産業文化のすみやかな交流に大きな役目を果たしています。このため、本県でも是非飛行場が必要となってきました。そこで他県に見られるように貴重な耕地を潰さないで、しかも交通の便が良く建設費が非常に安くできる神通川の中洲を選んで事業に着手することになりました。

教育

教育は、県民の生活安定を行なう重要なにない手としての「人」の養成に重点がおかれています。

産業開発がこれからの最も大きな県の仕事なので、このことにたずさわる人として健全な精神と身体をもっていて、さらに科学的な技術や知識を充分身につけた人が必要です。このために「幼稚園から高校まで一貫した課程による教育」「教育センターを中心にした教育方式」「勤労青少年に対する新しい産業教育（通信産業高校、産業教育館）」が計画されて着々とその成果をあげています。ことに本県が初めて考えた理工科センターは、その必要性が国にも認められ、近く国立の理工科センターが設けられることになっています。

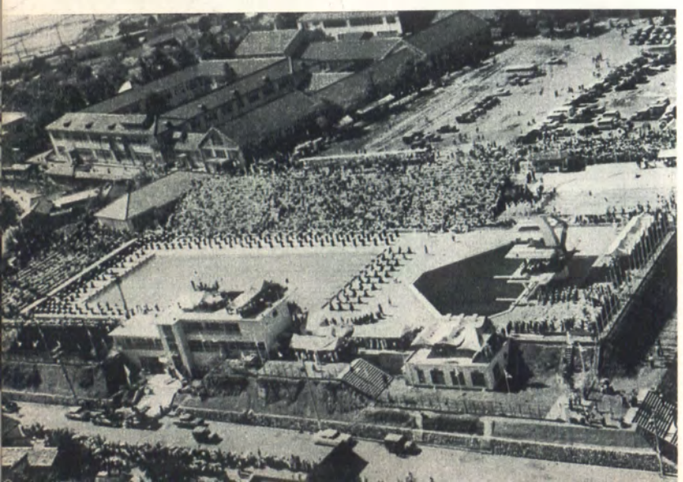
健全な身体をつくるための体育施設は、さきに行われた第十三回国民体育大会を機会に、県営の陸上競技場、野球場、水泳プール等のほかに、学校の体育施設、設備も充実され、これからはより多くの人が充分活用して健康な身体をつくるためのいろいろな計画が考えられています。

実習にはげむ農村家庭科生—桜井高校—

産業技術教育の殿堂、産業教育館

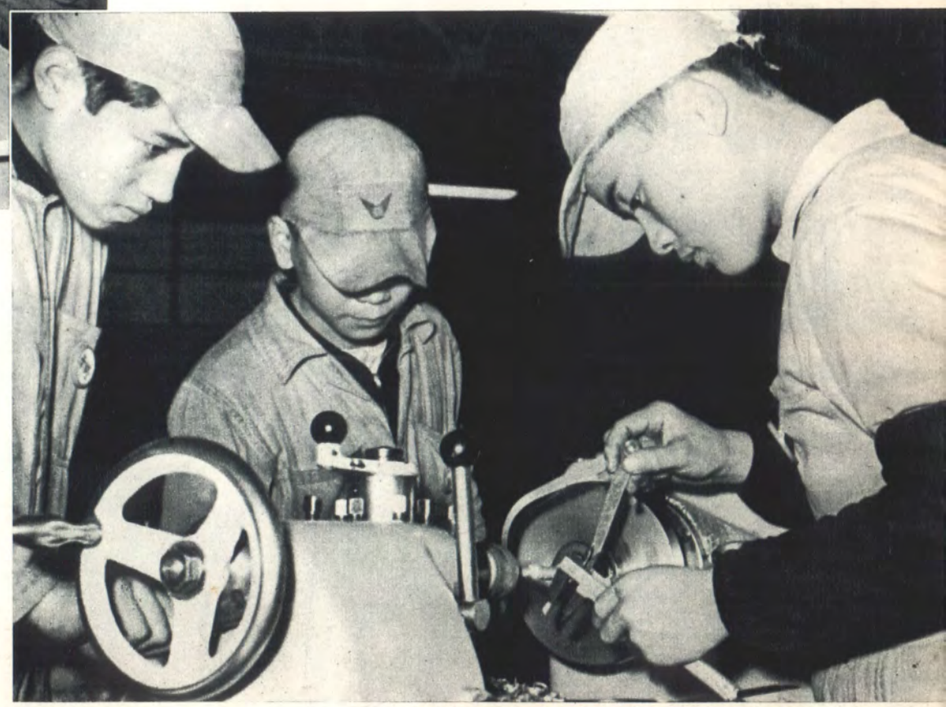
県営陸上競技場と野球場

アイソトープを使っての化学実験—富山工業高校—



県営高岡水泳場

富山市体育館



勉学にはげむ職業訓練生たち

青少年対策

規律正しい団体生活をするボーイスカウト

百万県民のうち五十万人は、次代を背負う青少年です。

健全な青少年活動は、郷土建設の土台であり、青少年対策は永遠の課題です。

現在の青少年は、戦中戦後の〝狂らん怒とう〟の時代に育ち、戦争による社会の激変の影響を強く受けております。

県民はそのつぐないの意味においても、青少年問題については愛情と責任を持たなければなりません。

昨年「富山県青少年活動推進本部」を設置し、県下全市町村をあげて青少年の健全化に努力していますが、本年は百万県民の「総ぐるみ運動」として青少年活動を促進したいものです。

古語に「之れを養う春の如し」とあります。やわらかくてあたたかい春の日ざしのように青少年を健やかに育てていきましょう。

郷土建設のために活躍が期待される産業開発青年隊

4Hクラブは新しい農村を背負って立つ青年たちのつどいである

青年団や青年学級の研修のセンター―青年の家―

青少年をすこやかに育てようと県では青少年問題協議会を中心に活動を進めている

熱心に技術をみがく青少年たち

立山で自然を心ゆくまで楽しむために設けられた県営立山荘

児童クラブも各地で活躍している

社会福祉

病後の治療と授産の施設—県後保護指導所—

麦に土寄せをする教護施設の子供たち—富山学園—

婦人も一人立ちできるようにと親身になって技術を身につけさせる

—婦人相談所—

手内職で気晴しする老人たち—静雲寮—

終戦後の混乱期もすぎて、ようやく県民の生活も安定し、順調に向上にむかっています。しかしその反面、今なお働き手を亡くしたり、あっても病気や失業で働くことができない貧しい家庭、身寄りのない老人、孤児、身体障害者など、こうした人はまだずいぶんあります。県ではこれらの人々を社会生活から脱落しないようにしようという国の方針を県独自の立場からさらに強めるため「愛情の県政」をモットーに、これらの人々のためになるいろいろの施設（養老施設、養護施設、教護施設、肢体不自由児施設、母子寮、保育所、精神薄弱者収容施設等）をできるだけ多くつくり、一方直接生活の扶けになるように、いろいろの援護資金の貸付等を行って、温かい援助の手をさしのべています。また働きたい人に適当な働き口を作ってあげることも、健康で文化的な生活をおくれるようにするためには重要なことなので、働き口をより多くするための努力もたゆまずつづけています。

子供も大人も手を取り合って—富山中央児童相談所—

母親が病気でも乳児施設で安心—県立乳児院—

学びながら治療を受けられる肢体不自由児施設—高志学園—

精神薄弱児の施設—黒部学園—

保健衛生

伝染病の病原体をつきとめるため努力を続ける県衛生研究所

水は生活の中心、簡易水道もどんどん普及している

町へ村へレントゲン車は集団検診に大活躍

最近はいろいろ新しい薬や治療方法が発達したので、病気も早く治るようになりましたが、健康で働くためには、まず病気にかからぬようにすることが大切です。こんなことから近年、病気にかからないようにする予防衛生ということが重要視されるようになりました。

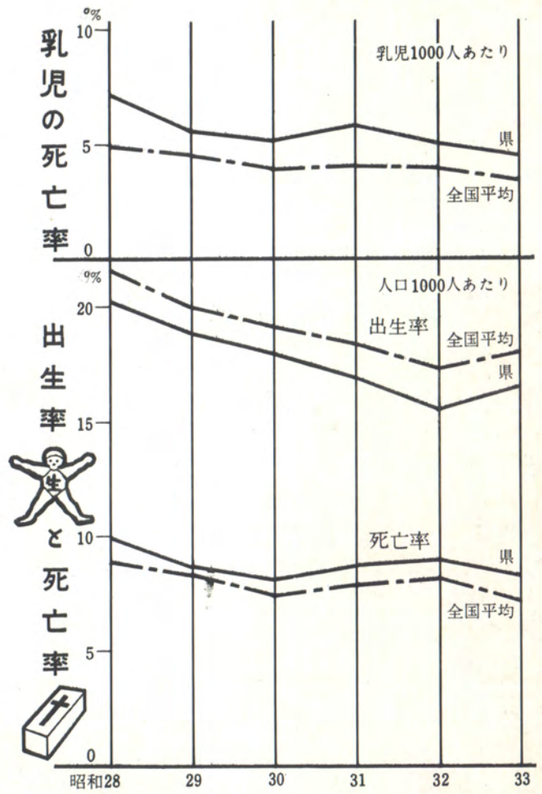
県では、この予防衛生の徹底と体力保持のための栄養改善に力を入れると同時に病気になっても早く治療するように尽しています。

このため、保健所や病院の設備をよくするようにしています。

このほか、飲料水の確保や、し尿や、ゴミの始末、カやハエの退治など、環境をよくするようにして県民の健康を守っています。

食生活の改善に一役買う生活改良普及員

新装成った県立中央病院の新病棟



観光開発

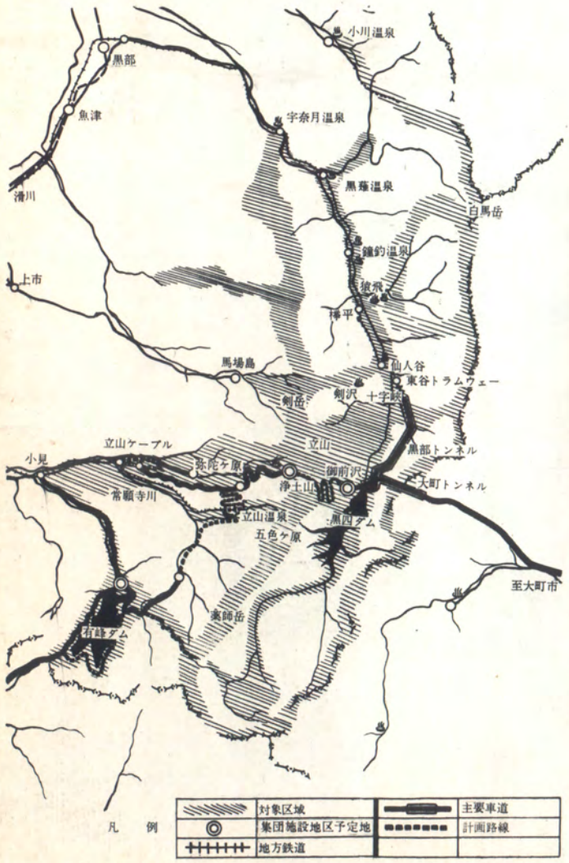
弥陀ケ原を縫って走る自動車道路、新しい道路は地獄谷を通って立山トンネルへ入る

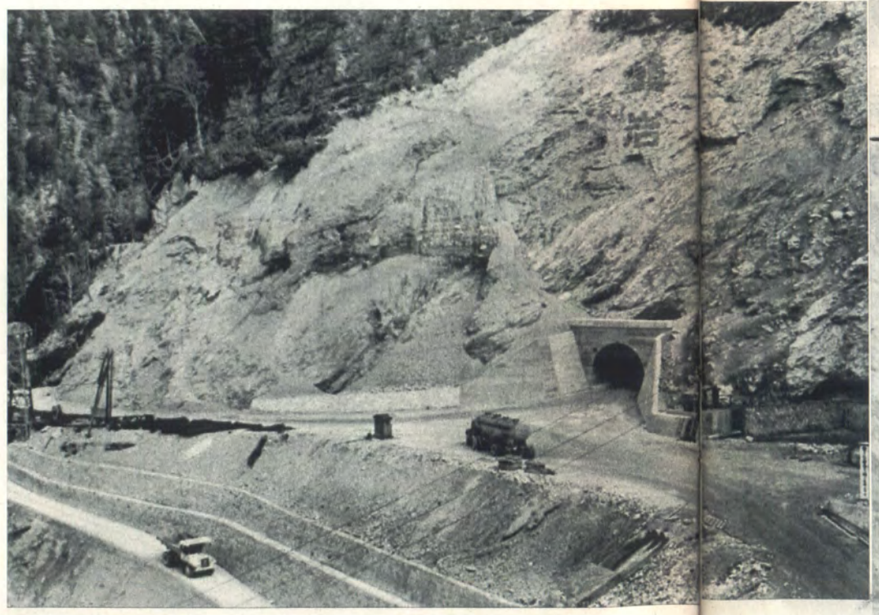
立山では越冬して観測が続けられた。

最近黒部川奥地の電源開発が急速に進められて、黒部トンネル、大町トンネルが開通したため、山中深く自動車が運行できるようになりました。また関西電力の世界第二のアーチダム、北陸電力の有峰ダムなどの築造で、立山、黒部、有峰地帯が、一躍観光界に脚光を浴びてまいりました。

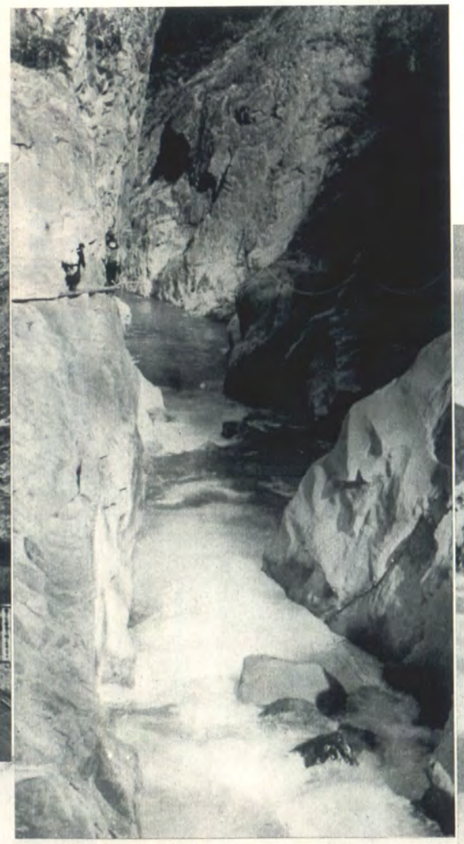
県では、これらの地帯を一つにまとめて観光資源開発計画〈T・K・A計画〉を立てましたが、それは立山をトンネルで掘りぬき、富山―立山―黒部―大町と結び、さらに東京をも結んで富山―東京間のもっとも近い観光産業道路にしようとする計画です。また、冬の立山を知るため、越冬観測隊員十五人が昨年の十一月から今年の三月まで室堂で気象観測を行いました。

県ではこのように広く中部山岳の景観美を多くの人に味わっていただくため、県と民間が一致協力して、この地帯の早期開発に努力しています。





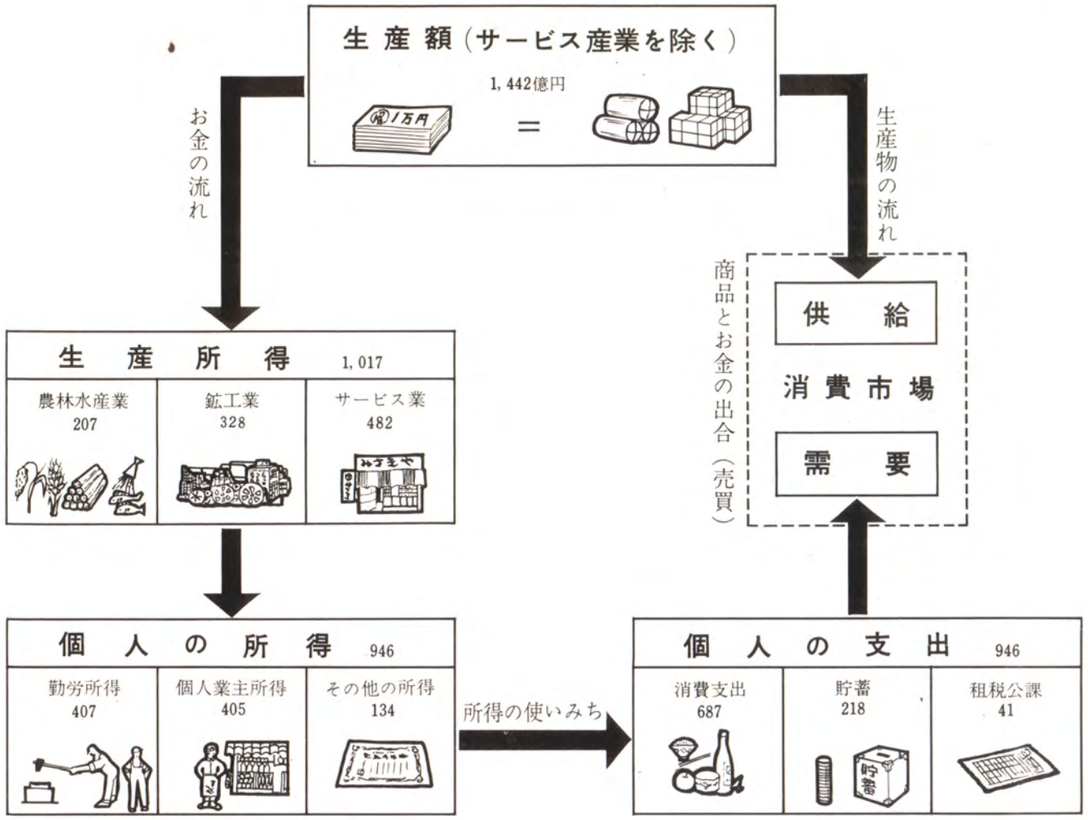
御前沢の大町ルート出口附近、将来観光産業道路の中枢となる



黒部峡谷の白竜峡

弥陀ケ原をゆく越冬観測隊の雪上車

県民所得の循環



県内で昭和三十三年に産業従事した人は五〇万八千人で、その人達の働きによって一、〇一七億円もの所得が生まれ、それだけ新しい生産物が作られています。この所得を産業別に分けてみると、農林水産業では二〇％、鉱工業は三二％、商業サービス等四八％の割合です。

最近産業の振興を図るために、新港を中心とする射水地域総合開発、北陸本線の複線電化、天然ガス利用等の諸施策が計画されて、将来の経済発展には大きく期待がもたれています。

所得のうち、個人が受取ったのは九四六億円で、これを県民一人当りになおすと九万二千円となり、全国でも十数位の高い地位にあります。このうち、県民全体で消費した額は六八七億円で、年々消費がふえて、その内容が充実し、ことに家具什器、加工乳肉卵食品や教養娯楽等の文化的なものが比較的多く買われていますが、これは生活の向上を意味しています。また個人の消費が向上したばかりではなく、会社団体においても、県民の貯蓄を集めた資金をもとにして新しい機械装置を整備しています。また、県民の納めた税金は道路や橋のような産業をおこす基盤をつくることや、砂防工事や河川改修のような県土保全の工事、あるいは土地改良や中小企業貸付のような産業振興のために支出されて、次第に県経済発展の基礎がしっかりと作られていきます。このような県経済のしくみが、総合開発計画の実施によって次第に改善され、産業は振興し、生産規模は大きくなり、さきにも述べたように、県民の暮しがより豊かになってきています。

富山県民グラフ　昭和35年4月20日発行
編集人　富山県
発行人
印刷　凸版印刷株式会社

災害の防止

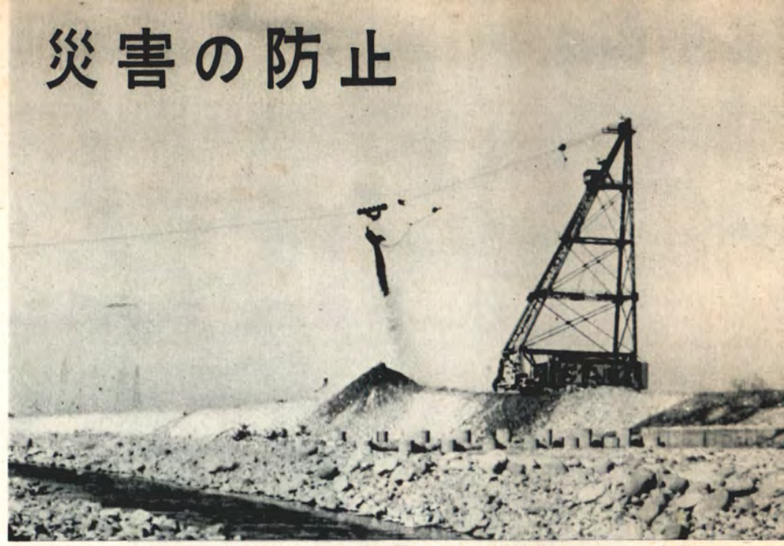
本県は三方が高い山に囲まれ、ここに非常に多くの雨や雪が降り、それが大小百あまりの河川となって北に深く湾入している日本海までわずかの距離を滝のように流れ下っています。

このため豊富な水は電力や農業用水、工業用水となっていろいろな方面に利用されています。

しかし出水すると洪水となって平野部に非常に大きな被害を及ぼすこともあります。この洪水のため、昭和二十七年には約三一億円もの大被害を受けました。最近はいろいろ洪水防止の対策をおこなってきたこともあって、かなり減少してきてはいますが、なお年平均七億円の被害をみています。

この災害を防止するため、荒れはてた水源地に植林し、出水で上流から流れ出した土砂をくい止めるダムをつくり、また河川をいつもよく改修して河床を整理し、堤防を強化する等、水源地から河口まで一貫した計画をたてて工事を進めています。

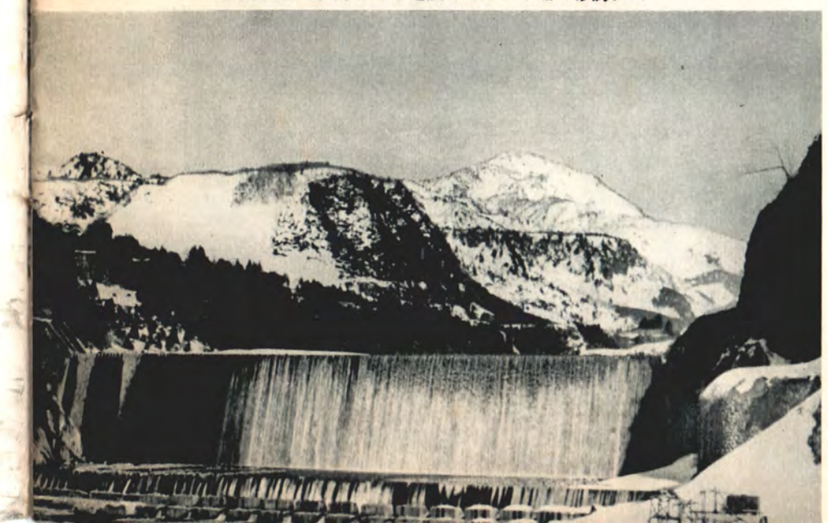
また本県の海岸は浸蝕が甚しく、所によっては年平均一・五～二米も後退しているところもあるので、最新工法のテトラポットをつかって浸蝕防止に努力しています。



川床を下げて洪水による災害を防ぐタワーエキスカベーター—常願寺川—

テトラポットやケーソン工法で海岸侵蝕を防ぐ

洪水防止に砂防ダムも建設される—本宮の砂防ダム—



富山県